

一般演題5-6

当院における突発性難聴に対する高気圧酸素治療の有用性

青木教郎¹⁾ 秋本大輔¹⁾ 齊藤達志²⁾

- | | | |
|----|--------|---------|
| 1) | 函館中央病院 | 医療機器管理室 |
| 2) | 函館中央病院 | 麻酔科 |

【はじめに】

当院における高気圧酸素治療（以下HBO）実績は年間900件を超える。そのうち耳鼻咽喉科からの依頼が半数を占め、ほとんどが突発性難聴である。しかし、突発性難聴の原因は未だはっきりとされておらず、根本的な治療法も確立されていないのが現状である。今回我々は、突発性難聴に対しHBOを施行した症例をretrospectiveに検討したので報告する。

【対象】

2010年1月から2012年6月までにHBOを施行した感音性難聴症例106名のうち、急性低音障害型難聴、メニエール病、急性音響外傷を除く77名を対象とした。（平均58.9歳）

【方法】

治療条件は2絶対気圧60分定圧、治療回数10回（途中終了を含む）を1サイクルとし、聴力検査データを元に4分法（500HZ+1000HZ×2+2000HZ÷4）を用いてHBO導入前と1サイクル終了後の結果を比較した（表1）。発症からHBO開始までを期間別に分類し、3病日以内に治療を開始した症例をA群、4病日から7病日以内をB群、8病日から13病日以内をC群、14病日以降をD群とした。さらに、60歳以上の症例に限局し、発症より7病日以内に治療を開始した症例をOA群、8病日以降をOB群とした。なお、聴力改善度（dB）および改善率（%）を比較し、統計学的有意差判定にはt検定を用いた（P<0.01）。

【結果】

聴力改善度および改善率の平均値は、全体22.7dB34.1%、A群25.9dB35%、B群27.8dB41.1%、C群15.7dB26.5%、OA群29.5dB40.2%であり有

意差（P<0.01）が認められ、D群4.1dB9.8%、OB群7.6dB11.1%では有意差（P<0.02）は認められなかった。

表1 聴力検査データの各平均値

	①導入前 (dB)	②終了後 (dB)	改善度 ①-②	改善率 (%)
全体	70.6	47.9	22.7	34.1
A群	79.3	53.4	25.9	35
B群	72.1	44.3	27.8	41.1
C群	65.8	50.1	15.7	26.5
D群	46.3	42.1	4.1	9.8
OA群	77.9	48.4	29.5	40.2
OB群	71.7	64.1	7.6	11.1

【考察】

発症から7病日以内に治療を開始できたA、B群では高い改善度を得ることが出来た。しかし、14病日以降に治療を開始したD群では改善度が7.6dBであり、ほぼ改善が見込めないと考えられる。これらの結果から遅くても発症から13病日以内、より高い治療効果を得るには7病日以内に治療を開始することが重要であると推測される。また、60歳以上の症例は一般的に聴力の改善が乏しいとされているが、今回の検討では7病日以内にHBOを導入することにより、60歳以上であっても聴力が改善される可能性がある。しかし、治療の開始時期が遅ければ聴力改善は難しいと考えられる。

【結語】

突発性難聴に対するHBOは早期に開始することが重要である。また、60歳以上においても発症から7病日以内にHBOを開始することにより、聴力改善の可能性が示唆された。

【引用文献】

- 1) 東野哲也：耳鼻咽喉科・頭頸部外科、突発性難聴、医学書院、2002；第74巻12号；pp829-835。
- 2) 小川郁：耳鼻咽喉科・頭頸部外科、急性感音難聴の鑑別診断、医学書院、2010；第82巻1号；pp19-24。
- 3) 暁清文、勢井洋史：耳鼻咽喉科・頭頸部外科、急性感音難聴の治療—高齢者のバリエーション、医学書院、2010；第82巻1号；pp33-39。